

令和2年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和3年9月

評価について

令和元年度実績に対し、令和2年度の図書館実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の5項目における自己評価及び総括としました。

運営基本方針の実現に向けた活動計画

- 1 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存
- 2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援
- 3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備
- 4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供
- 5 快適で信頼できるサービスの提供

総 括

令和2年4月16日(木)、全国に緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月18日(土)から5月10日(日)の期間は、中央図書館及び公民館図書室を完全休館しました。その後も、休館や開館時間の短縮などを実施せざるを得ない状況が繰り返され、結果的には開館日及び開館時間が前年度より約20%減少しました。また、少人数、短時間での利用をお願いし、座席も減席するなど感染症対策を行いながらの開館となり、来館者数、貸出数など利用に関する数値は軒並み減少しました。しかしながら、5月の休館時にはご自宅に本を届ける「図書館わくわく宅配本」や予約資料の受渡しを実施するなど、ご自宅で読書を楽しんでいただける取組を実施しました。

令和元年度に大規模改修のため休館していた中央公民館が、令和2年6月にリニューアルオープンしました。中央公民館図書室も、書架やレイアウトを一新し、新たな一歩を踏み出しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、これまでの主流であった滞在型図書館という概念が揺らぐほどの未曾有の危機でした。新しい生活様式という言葉も生まれ、世の中の動きが変化している中で、図書館の感染症に対する対応のあり方や図書館の新しいサービスについても考えさせられました。今後も感染症対策を継続しながら利用者ニーズを的確に把握し、サービスの充実に努めてまいります。

図書館事業実績評価

1 市民の求める図書や情報の収集, 提供, 保存

評価基準	R1年度実績	R2年度実績	前年比
図書資料数	434,115冊	432,307冊	↘
視聴覚資料数	18,883点	18,970点	↗
雑誌タイトル数	331タイトル	331タイトル	→
新聞タイトル数	33紙	32紙	↘
蔵書冊数 (市民一人当たり)	6.4冊	6.3冊	↘
資料回転率 (図書)	※1 —2.2回 2.1回	1.7回	↘
地域・行政資料の受入冊数	234冊	310冊	↗
寄贈資料受入冊数	970冊	1,020冊	↗
地域資料等のデジタル化 (ADEAC作成件数)	3件	1件	↘
宅配サービス等登録者数	3人	3人	→
宅配サービス等貸出点数	274点	239点	↘
外国語資料の受入冊数	34冊	107冊	↗
レファレンス受付件数	※2 —5,940回 8,481回	8,053回	↘
県立図書館, 県内公共図書館との相互貸借数	2,356冊	1,891冊	↘
国立国会図書館, 他県立図書館等との相互貸借数	259冊	208冊	↘

※1 数値が誤っていたため訂正しました

※2 令和元年度実績は, 中央図書館のみの値だったため, 全館合計値に訂正しました

自己評価

・視聴覚資料数及び雑誌・新聞タイトル数において, 大きな変化はありませんでした。図書資料数の減少は, 中央公民館図書室のリニューアルによる収容力の変更※1に伴い, 除籍数が増えたことによるものです。図書館に比べて蔵書が少ない公民館図書室では, 新鮮な資料を提供していくことも重要です。それぞれの館の利用状況に応じた資料選定に努めました。

・資料回転率 (図書), レファレンス受付件数, 相互貸借数などの数値が減少しました。

・地域・行政資料の受入冊数, 寄贈資料受入冊数が前年度を上回りました。休館が多かったため, 資料のデータ作成等手間のかかる作業に, 通常時よりも時間を費やすことができたことによるものです。

・ADEAC (デジタルアーカイブ) は, 「守谷志」を追加しました。また, 「古老に聞いた守谷の昔の話」の公開に向けて, 古老へのインタビュー内容のテキスト化を実施しました。

・利用者から要望のあった英語多読資料等を購入したことにより, 外国語資料の受入冊数が前年度を大きく上回りました。

※1 図書室の一部をキッズルームに改修

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	R1年度実績	R2年度実績	前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	1回	0回	↘
子ども向け行事開催数	22回	11回	↘
子ども向けの資料案内の作成数	12件	11件	↘
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	6回	7回	↗
ボランティアによるおはなし会の実施回数	151回	35回	↘
学校への団体貸出冊数	4,947冊	4,388冊	↘
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	189冊	41冊	↘
ブックトークの実施数	25回	25回	→

自己評価

<p>【子どもの読書活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館は、令和2年5月に開館25周年を迎えました。5月の子ども読書週間には、開館25周年を記念した行事を多数予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、すべて中止という結果になりました。 ・守谷市教育委員会指導室（現教育指導課）と連携し、守谷市に勤務するALTによる英語のおはなし会を開催しました。今後も年1回程度を目安として開催していく予定です。 ・子ども向けの資料案内については、小学校低・高学年、中学生を対象とした「図書館新聞」を11回発行しました。 ・感染症拡大防止のため、ボランティアの一部が活動を自粛及び休止したことに伴い、おはなし会の開催回数は3分の1以下となりました。 <p>【中央図書館との連携による学校図書館の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/7（火）から5/31（日）の期間に、市内の小・中学校が臨時休業（休校）となりました。その期間中は、学校再開後の学校図書館における新型コロナウイルス感染症対策のサポートを実施しました。主に、①カウンター前の透明フィルムの設置、②貸出時の生徒の並ぶ位置決め、③返却方法の検討、④返却本の消毒の有無や、置き置き期間の設定などです。指導に当たっては、全国学校図書館協議会のガイドラインを参考にし、最終的な判断は学校が行いましたが、学校司書からの懸念事項に対応しながら、各学校に応じた対策案を提示しました。 ・学校への団体貸出数は、前年度4,947冊に対し令和2年度は4,388冊となり、前年度の88.7%になりましたが、ブックトークの実施数は、前年度と同数の25回でした。感染拡大の状況によって、Zoomを使ってオンラインでブックトークを実施した学校もありました。
--

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	R1年度実績	R2年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	21団体	22団体	↗
ボランティアとの協働事業実施回数	14回	5回	↘
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	4回	0回	↘
図書館ボランティア連絡会開催回数	2回	書面	→
一般向け講演会、講座等の実施回数	5回	1回	↘
展示会の開催回数	9回	10回	↗

自己評価

・学校司書を中心としたおはなしボランティア「トウトウトゥ♪」が結成され、図書館ボランティア登録数が1団体増加しました。「トウトウトゥ♪」は、リニューアルした中央公民館のキッズスペースにおいて活動を開始しました。

・集客数の多いイベントの開催自粛、ボランティアの活動自粛や休止により、協働事業を含む事業全体の実施数が大幅に減少しました。感染症拡大防止対策を実施しながら、小規模なイベントのみ開催しました。

・ボランティア、市民等との協働により、手話サークルふれあいによる「やさしい手話講座」、市内で活躍するサークルのフォトクラブ写遊、守谷平和の会による展示、守谷ひなまつり実行委員会による「第9回守谷ひなまつり」を実施しました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	R1年度実績	R2年度実績	前年比
開館日数	345日	275日	79.7%
新規登録者数	1,666人	1,179人	70.8%
来館者数	298,043人	180,781人	60.7%
貸出点数（全館 個人）	976,305点	856,382点	87.7%
貸出利用者数	※1 283,540 人 242,773人	195,464人	80.5%
市民一人当たり貸出数	14.2冊	12.4冊	87.3%
予約・リクエスト受付件数	212,234件	209,015件	98.4%
団体貸出数（学校以外）	4,358冊	3,753冊	86.1%
インターネット端末利用回数	415回	271回	65.3%
電子図書館閲覧数 ※2	1,840件	6,171件	335.4%
ナクソス・ミュージックライブラリー ログイン回数 ※3	3,027回	2,244回	74.1%
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	※4 1,043 回 1,295回	1,286回	99.3%
読書応援タイム（託児サービス）利用数	368人	191人	51.9%
書籍消毒機利用回数	12,135回	22,909回	188.8%

※1 指定管理と直営の比較を公正に行うため、指定管理期のカウント方法（貸出延長数）に基づく数値に補正していたものを、現在のカウント方法に基づく数値に戻しました

※2 電子図書館利用数から閲覧数に表記を訂正しました

※3 コンテンツ閲覧数からログイン回数に基準を修正しました

※4 未カウントの項目があったため、訂正しました

自己評価

・開館日及び開館時間がおよそ20%減少したことにより、新規登録者数、貸出点数（全館）、貸出利用者数などの利用に関する数値が前年度より大幅に減少しました。

・休館中に少しでも多くの方に、ご自宅で電子図書館を利用していただくために、来館が必要だった利用手続きを電子申請できるようにしました。また、6月に実施した図書館システムの更新後は、図書館と電子図書館のパスワードを共通にし、中学生以上としていたパスワード発行の年齢制限を撤廃したことなどにより前年度比335.4%となりました。

・育児コンシェルジュによる読書応援タイムは、感染症拡大防止対策を講じ、託児人数を1回3人に設定して実施しました。令和2年度は工作教室を休止しましたが、ご自宅で工作を楽しんでいただくために、育児コンシェルジュが工作キットを作成し配布しました。

・書籍消毒機は、中央図書館のみの設置でしたが、令和2年度は、感染症対策の一環として、公民館図書室4室すべてに設置し、多くの方にご利用いただきました。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	R1年度実績	R2年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	76.5%	77.8%	↗
司書資格新規取得者数	1人	1人	→
研修への参加回数	27回	5回	↘
研修の受講者数	115人	14人	↘
図書館協議会開催数	4回	書面開催2回	↘

自己評価

・常勤職員に占める有資格者数（司書）が前年度を上回りました。また、会計年度任用職員1名が新たに司書資格を取得することができました。

・研修会の開催自体が大幅に減少する中、オンライン開催という新しい形が生まれました。感染症拡大防止の観点から、県外開催の研修会等への参加は自粛し、オンライン開催の研修会には積極的に参加しました。また、新人会計年度任用職員に対し館長が講師となって、接遇、セキュリティー研修を実施し、職員のスキルアップに努めました。

・書面開催により、年2回の図書館協議会を開催し、委員の皆さんからご意見やアドバイスなどをいただきました。

・10月13日（火）～11月10日（火）の期間、「守谷中央図書館の利用に関するアンケート」を実施しました。総合評価において、満足が全体の60%以上、満足と普通の合計で96%以上であり、サービス全般においておおむね満足いただけている結果となりました。